

第

2

章

基本構想

| | | |
|-----------|----------------|----|
| [第 1 節] | 目指すべき将来像 | 16 |
| [第 2 節] | 将来の主要指標 | 21 |
| [第 3 節] | 将来都市構造 | 23 |

〔第1節〕

目指すべき将来像

◆ まちづくりの将来像

元気あり！住んでよし！ 誰もが輝くまち つばた

本町は石川県のほぼ中央に位置しており、交通の要衝として栄えてきました。また、自立した町を目指し、便利で快適な生活環境の整備が進められ、人口を増やしてきました。さらに、豊かな自然環境や、歴史、津幡ブランドなどの特産品等、これまでに継承されてきた数多くの魅力ある資源を有しています。

第5次津幡町総合計画では、本町に関わるすべての人が“住んでみたい”“ずっと住みたい”と心から思えるまちを目指し、各種施策を推進してきました。

今後も住みよいまちとして本町を選んでもらうために、ライフステージにあわせた多様な暮らしを充実させるとともに、近年激甚化する災害から早期の復旧・復興と災害に強いまちづくりを推進することが求められています。また、今後の人口減少を見据えた地域経済の活性化や交流の促進を図るとともに、本町特有の資源を活かした魅力の創出と発信を継続的に行い、将来を見据えた持続可能なまちづくりを推進することが重要です。

本計画では、本町のさらなる成長・活性化に向けて、多様な交流や活動を創出し、元気あふれるまちを目指すとともに、安全・安心なまちづくりを進め、便利に暮らせる住みよいまちを目指します。また、子どもから高齢者まで、本町に関わる様々な人が成長・活躍できる環境づくりや、積極的な住民協働によるまちづくりを進め、誰もが自分らしく輝くことができるまちを目指します。

〔将来像に込められた意味〕

元気あり！

人口減少・少子高齢化が進行する社会においても、さらなる成長・活性化に向けて、多様な交流や活動を創出し、将来にわたって人々の活気と笑顔あふれるまちを目指します。

住んでよし！

石川県森林公園をはじめとした豊かな自然環境や、加賀地方・能登地方・富山県の交通の要衝という交通・買物の便の良さといった本町の強みを最大限に活かすとともに、近年の災害の激甚化などを踏まえた安全・安心なまちづくりを進め、便利に暮らせる住みよいまちを目指します。

誰もが輝くまち つばた

老若男女問わず誰もが自己実現に向けて学び・成長し、自分らしく魅力的に輝くことができるまちを目指すとともに、“つばた”から全国・世界へその輝きを広げていくことを目指します。

◆ まちづくりの視点



持続可能なまちづくり

- これまで本町では、成長・拡大を目指す社会から、これまでのまちづくりの成果を維持・活用しながら、地域の資源や魅力を十分に引き出し、新たな魅力を創出することを目指してきました。今後は、経済的、社会的、環境的な観点から、多様化・複雑化する現代のニーズを満たす一方で、将来世代のために資源や環境を保全し、充実させて引き継いでいくことが重要となっています。
- そのため、本町が有する様々な資源や魅力を最大限に活用し、新たな魅力を創出するとともに、それらを支える健全で安定した行財政基盤を確立し、未来につながるための「**持続可能なまちづくり**」を進めます。



つながりを深め広げるまちづくり

- これまで本町では、新たなにぎわいや活力の創出に向け、近隣市町をはじめとした広域的な交流と連携によるまちづくりを進めてきました。一方、生活様式の多様化により、地域コミュニティなどのつながりが希薄化しています。
- 今後は、社会の変容に対応したつながりや交流が求められており、場所を選ばないデジタルコミュニケーションの活用や、多世代や多文化が共生する、広域的で多様な人や組織が関係を深める場の提供・創出を通して、「**つながりを深め広げるまちづくり**」を進めます。



住民主体のまちづくり

- 積極的な住民協働によるまちづくりは、地域に対する愛着や責任感を育むだけでなく、住民や行政、各種団体、事業者などが対等な立場で連携・協力し、地域の課題に対する意見や解決策を多角的に取り入れることができるため、より良い地域づくりにつながります。
- 地域の住民が主体的に参加し、協力し合いながら地域の課題解決や環境づくりを自立的に進めることで、住民の意見やニーズが反映され、より実効性のあるまちづくりが実現することを目指し、「**住民主体のまちづくり**」を進めます。

◆ まちづくりの基本目標

基本目標1

安全・安心で快適に
暮らせるまち

- 近年激甚化する災害に備えるため、ハード・ソフト両面から災害に強いまちづくりを進めるとともに、防犯・交通安全対策の充実を図り、安全で安心して暮らせるまちを整備します。
- 田園や森林などの緑や水辺の環境の保全とともに、地球環境問題への意識を高め、循環型社会の構築に向けた取組を進め、将来にわたり豊かな自然を感じることができるまちづくりを進めます。
- 自家用車に依存しなくても暮らしやすい環境の整備や、災害復旧と合わせた生活インフラの維持管理・更新、空き家等を利活用した移住・定住促進を行い、本町に住みたい、住み続けたいと思える都市基盤を整備します。

▼施策の方針

- | | |
|-----------------|----------------|
| ① 災害に強いまちづくりの推進 | ② 防犯・交通安全対策の充実 |
| ③ 自然環境や生活環境の保全 | ④ 住みよい都市基盤づくり |

基本目標2

地域の魅力と活力が
あふれるまち

- 豊かな自然環境や様々な歴史・伝統・文化などを保全・継承するとともに、新たな魅力を発掘し磨き上げ、地域に誇りと愛着が生まれ、自慢したくなるまちづくりを進めます。
- 森林公園や体験型観光交流公園などをはじめ、本町特有の多彩な資源(ヒト・モノ・コト)を活用し、町内外に広く発信することで、人が集まり交流し活力を生み出すまちづくりを進めます。
- 中小企業や農林業の支援を充実し、産業の振興を図るとともに、地域特性を活かした企業誘致や新たな産業団地の整備などにより、働く場を創出し、好循環を生み出すまちづくりを進めます。

▼施策の方針

- | | |
|-------------------|------------|
| ① 豊かな自然や歴史・文化等の活用 | ② 観光・交流の推進 |
| ③ 産業の振興と雇用の創出 | |

基本目標3

いきいきと過ごせるまち
生涯にわたって

- 結婚から子育てまで地域全体で支援する体制を充実することで、子育ての楽しさや喜びを実感でき、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めます。
- 子どもからお年寄りまで、必要な時に支援やサービスが受けられ、誰もが生活に困難を抱えることなく、住み慣れた地域でいきいきと暮らすことができるまちづくりを進めます。
- 生涯にわたり心と身体の健康を保ちながら、地域で安心して適切な医療サービスが受けられるよう、また、災害時には拠点病院となる新たな医療機関の整備などにより、いつまでも健やかに暮らせるまちづくりを進めます。

▼施策の方針

- ① 安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる環境の充実
- ② 福祉・介護支援の充実
- ③ 心と身体の健康づくりの推進

基本目標4

豊かな心を育み
自分らしく活躍できるまち

- 確かな学力と社会の変化に対応できる豊かな心と健やかな体を持つ子どもたちを、地域が一体となり育むことで、未来を切り拓く知恵と力をもった子どもたちが育つまちづくりを進めます。
- ふるさと津幡の過去から現在に至る学びや、様々な地域やコミュニティのつながりなどを通して、ふるさとを愛し誇りに思う心を育むとともに、国内外で社会に貢献する人材を育成します。
- 世代を超えて学び続けられる環境や、気軽にスポーツ活動・芸術活動に参加し楽しむことができる環境づくりに取り組み、生涯にわたり自分らしく活躍でき、豊かな人生を送れるまちづくりを進めます。

▼施策の方針

- ① 確かな学力と社会の変化に対応できる人材の育成
- ② ふるさとへの愛着と豊かで健やかな心身を育む教育の推進
- ③ 生涯学習とスポーツ・芸術文化活動の推進
- ④ 安全・安心で質の高い教育環境と学び支え合う地域づくりの推進

基本目標5

つながり支えあい
共創するまち

- 地域の交流を促進し、支え合いの意識やつながりを醸成するとともに、住民自らが地域の課題解決に主体的に参画することで、地域に誇りと愛着を感じて暮らすことができるまちづくりを進めます。
- 年齢や性別、国籍などにかかわらず、多様な立場の人々がお互いに認め合い、対話ができる環境を整えることで、本町にとって新しい価値をともに創造していきます。
- 誰もが利用しやすい行政サービスと開かれた行政運営を進めるとともに、行政コストの削減に向けたデジタル化の推進や施設・組織の最適化を図ります。

▼施策の方針

① 地域コミュニティの活性化と参画・協働の促進

② 多様性が尊重されるまちづくり

③ 質の高い行政運営の推進

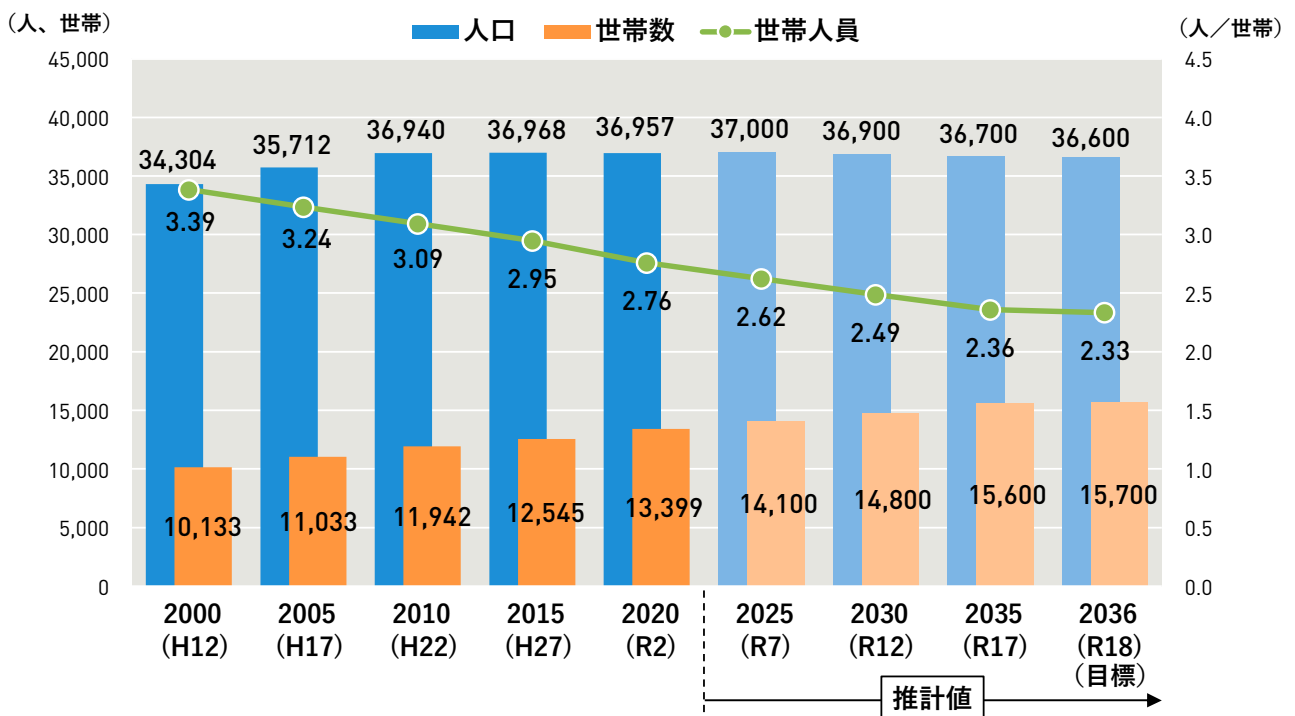
[第2節]

将来の主要指標

本町の将来人口は、全国的な出生率の向上や子育て環境の改善などの取組のほか、本町の魅力を活かしたまちづくりの推進、企業誘致やUJターン、定住促進などの各種取組を踏まえて、目標年次(2036(令和18)年)の将来人口を**36,600人**と設定します。

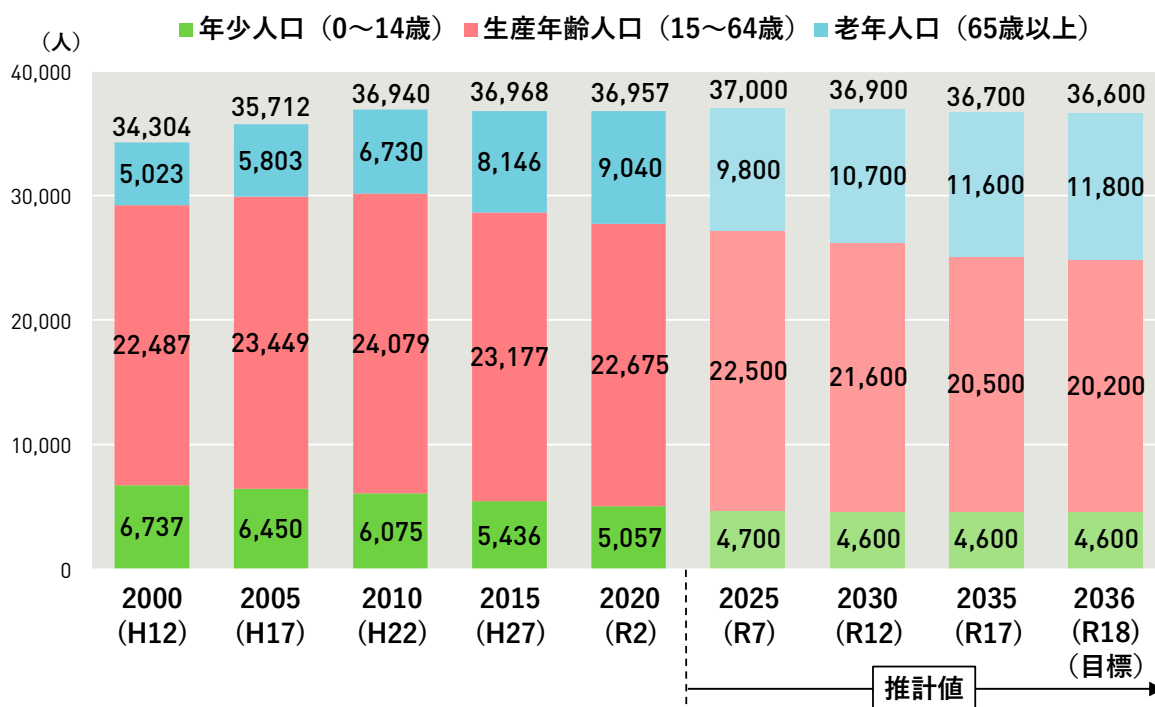
また、近年の世帯の小規模化(核家族や単身世帯の増加)の傾向を踏まえながら、三世代の同居や近居を奨励する施策を推進し、2036(令和18)年の世帯数は**15,700世帯**、世帯人員を**2.33人/世帯**と設定します。

▼人口・世帯数・世帯人員の推計



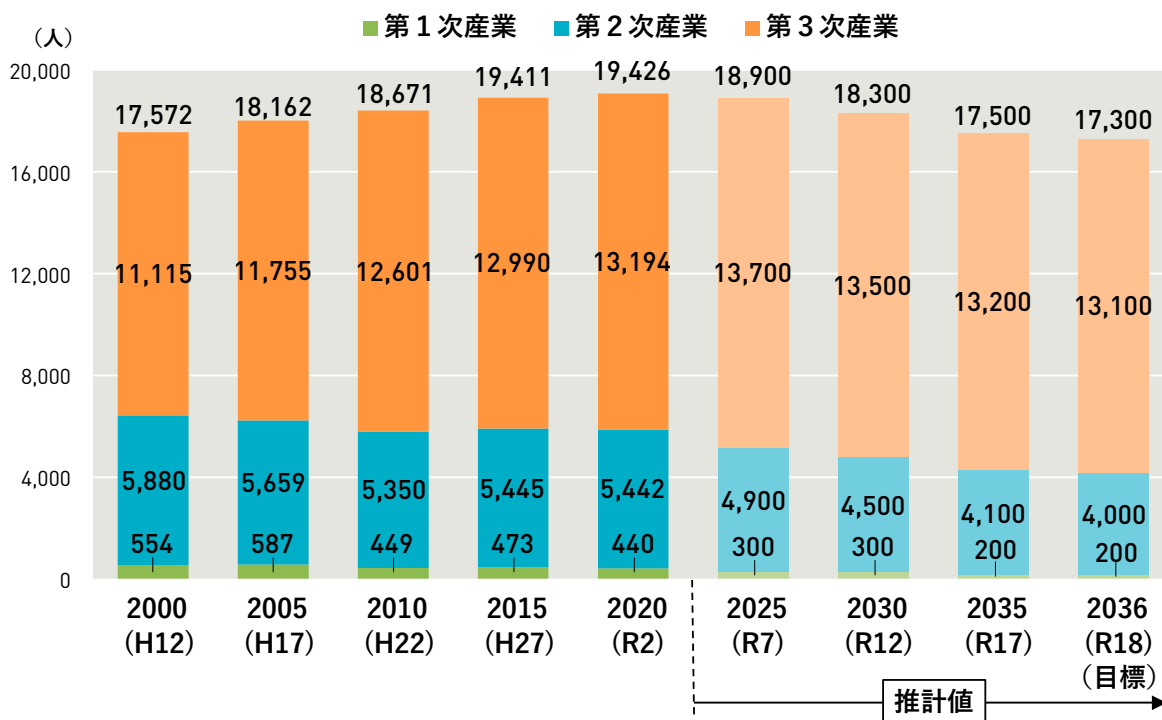
出典：国勢調査(2000(H12)～2020(R2)年)、2025(R7)～2036(R18)年は推計値

▼年齢階層別人口の推計



※2000(H12)~2020(R2)年の人口総数には「年齢不詳」人口を含む 出典：国勢調査(2000(H12)~2020(R2)年)、2025(R7)~2036(R18)年は推計値

▼産業別就業人口の推計



※2000(H12)~2020(R2)年の就業者総数には「分類不能の産業」従業者数を含む 出典：国勢調査(2000(H12)~2020(R2)年)、2025(R7)~2036(R18)年は推計値

[第3節]








将来都市構造

本町の都市構造は、交通の要衝としての特徴を活かした都市軸と町内外の交流を創出する拠点を核としながら、最大の魅力である豊かな自然と快適な市街地が共存する魅力的な町を目指し、将来都市構造図を以下のように定めます。




▼将来都市構造図






土地利用ゾーニング

| | |
|--|---|
|  市街地ゾーン | 住みやすい居住環境の保全を推進するとともに、安心して快適な生活環境を創出するゾーンとし、都市機能の集約化により、魅力的な市街地の形成を推進するとともに、地域コミュニティの強化を進めます。 |
|  にぎわい創出ゾーン | 利便性、文化性のあるにぎわいを創出するまちの中核となるゾーンとし、魅力ある商店街の充実や文化機能・教育機能・行政機能の中心としてにぎわいの創出を進めます。 |
|  産業創出ゾーン | 既存工業施設が集積するゾーンとして、今後も周辺環境との調和に配慮しながら、本町における産業の発展に寄与する機能の集積・充実を進めます。 |
|  農業ゾーン | 河北潟周辺の農業基盤の強化・充実、水田を中心とした農業の振興、特産品開発など本町の魅力となる第1次産業の振興を推進します。 |
|  森林ゾーン | 豊かな自然環境を適正に保全・継承し、緑豊かなまちづくりを進めます。 |
|  里山ゾーン | 森林ゾーンに囲まれた集落や棚田などの美しい里山景観を保全するとともに、集落の生活環境を維持する取組を進めます。 |
|  いきいき交流ゾーン | 健康で豊かな生活を支援するとともに、交流人口増加のための特徴あるゾーンの充実を推進します。 |

拠点

| | |
|---|---|
|  交流拠点 | 幅広い交流の核となる拠点として機能充実や整備を推進します。 |
|  地域拠点 | 地域のコミュニティ強化や福祉、生活環境、防災面など、安全・安心な生活を支援するための拠点として機能の充実や整備を推進します。 |
|  複合機能開発拠点 | 物流や産業、住宅などの複合的な開発の拠点として、物流や商業施設などの立地や、安全・安心な住環境の整備、企業の誘致などを推進します。 |

都市軸

| | |
|--|---|
|  広域連携軸 | 周辺の市町をはじめとした連携を強化する軸として位置づけ、広域的な連携・交流を推進します。 |
|  地域連携軸 | 広域連携軸を補完する軸として位置づけ、隣接市町などとの連携強化や、市街地と郊外部・集落地との連携強化を進め、交通の要衝となる本町のアクセス性を向上します。 |
|  地区連携軸 | 本町の生活拠点などを連携し、市街地内や各地区間のネットワーク形成や交流を推進します。 |

※道路(構想)は、将来的に道路整備を想定するおおむねのルートの位置を示したものです。

